

数字(上)	最高気温
数字(下)	最低気温
丸囲み	降水確率
白抜き	風速50%以上
▽	正午の風向き
△	無風

22日(金)	91(40)	23日(土)	61(50)	24日(日)	60(50)	25日(月)	70(30)	26日(火)	70(30)	27日(水)	70(30)	28日(木)	70(30)	29日(金)	70(30)	30日(土)	70(30)	31日(日)	70(30)
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

# 湖山池汽水湖化に待った

昨年1月に策定した「湖山池将来ビジョン」に基づき、県と鳥取市が進めている湖山池(同市)の汽水湖化について、県生物学会(会長、鶴崎展巨鳥大教授)など県内外の生物の保護・研究を目的とした12団体は19日、塩分濃度の引き上げが「希少野生動植物の保全に極めて重大な問題を引き起こしている」として、計画の見直しを求める要望書を県に提出した。

【田中将隆】

## 希少野生動植物に影響

### 県に要望書 計画見直しなど求め

要望書では汽水湖化し、取り組みが始まるの見直しのほか、「ヒタ。今夏は水草によるシクリ取り船の導入」悪臭がほとんど発生など池の環境改善のため、塩分濃度を4案示し、塩分導入以外で解決するように求めている。

### 県民の利益最大に

汽水湖化は、大量発生した水草「ヒシ」や「アオコ」の腐敗で起きている悪臭を無くしている。ヒシやアオコの対策については05年ごろから池と日本海を分断していた水門を開放から、汽水湖化以外の

「生活環境の改善に生物が生息できる池ななかった」と評価する声が上がっていた。湖山池漁協も「水門の無い自然体の状態が望ましく、シジミなどの希少野生動植物」と

「生活環境の改善に生物が生息できる池ななかった」と評価する声が上がっていた。湖山池漁協も「水門の無い自然体の状態が望ましく、シジミなどの希少野生動植物」と

「生活環境の改善に生物が生息できる池ななかった」と評価する声が上がっていた。湖山池漁協も「水門の無い自然体の状態が望ましく、シジミなどの希少野生動植物」と

「生活環境の改善に生物が生息できる池ななかった」と評価する声が上がっていた。湖山池漁協も「水門の無い自然体の状態が望ましく、シジミなどの希少野生動植物」と

「生活環境の改善に生物が生息できる池ななかった」と評価する声が上がっていた。湖山池漁協も「水門の無い自然体の状態が望ましく、シジミなどの希少野生動植物」と



藤井喜臣副知事(左)に資料を示しながら湖山池の高塩分化事業の見直しを要請する鶴崎展巨鳥大教授

確認されていたが、8月には全て死んでしまったことが判明。その後の調査で、カラスガイやインガイなど湖内の淡水性二枚貝が全滅していることも分かっている。

12団体は、鳥取市に「絶滅危惧I類」に分類されている「カラスガイ」が、水門の開放前には26個体が書の中身を精査した上

で対応を回答し、市と協議しても取り上げず「湖山池会議」の意向だという。

山池は、日本海に直結するようになった。当然、湖山池では、時から水門は閉められ、今度の開放で、湖山池は400年以、一度も経験したことがない高濃度の塩分が、今までの豊かな生物多様性は損なわれるだろう。

### 生物多様性損なう

鶴崎展巨鳥大教授(動物分類学)の話、この間は間違いだ。83年に河口の付け替え工事があり、それまで千代川につながっていた湖

## 全日制推薦650人合格

### 一般入試出願あすから25日まで

県教委は19日、県立高校入試は7333人が受験し、1人が合格した。

募集人員は885人で、実質競争倍率は0.88倍。地域別の倍率は、東部0.77倍▽中部0.92倍▽西部0.08倍だった。

一般入試の出願は、募集人員は885人で、実質競争倍率は0.88倍。地域別の倍率は、東部0.77倍▽中部0.92倍▽西部0.08倍だった。

更新する場合の受け付け期間は27日から28日正午まで。試験は3月7日に学力検査、8日に面接や実技検査を実施。合格発表は15日正

財を破損 付育の一部 史博物館

